

19) 皮膚科臨床研修プログラム

研修医氏名

指導医氏名

I. 一般目標

皮疹からの鑑別診断と検査方法の選択、適切な診断に基づく治療方法を習得する。

1. 皮疹の表現方法と鑑別診断を習得する。
2. 皮疹からの鑑別診断に必要な検査方法とその評価能力を習得する。
3. 皮膚疾患に対する適切な投薬と外用剤の使い分けを習得する。
4. 皮膚外科的手技を習得する。

II. 経験目標

A. 経験すべき診察法・検査・手技

II-A- (1) 医療面接

★明朝体：経験が必要とされる項目

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意識を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。	A B C D	A B C D
★	2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。	A B C D	A B C D
★	3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。	A B C D	A B C D

II-A- (2) 基本的な身体診察法

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載するた

		研修医評価	指導医評価
★	1) 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる。	A B C D	A B C D
☆	皮膚病変を観察し、皮疹の形態、分布、配列などを客観的に記載することができる	A B C D	A B C D

☆ゴシック体：当該科で経験が必要とされる項目

II-A- (4) 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 包帯法を実施できる。	A B C D	A B C D
★	2) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。	A B C D	A B C D
★	3) 簡単な切開・排膿を実施できる。	A B C D	A B C D
★	4) 皮膚縫合法を実施できる。	A B C D	A B C D
★	5) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。	A B C D	A B C D

II-A- (5) 基本的治療法

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む）ができる。	A B C D	A B C D
★	2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む）ができる。	A B C D	A B C D
☆	皮膚生検法の適応、部位、方法、禁忌について説明し、実施することができる	A B C D	A B C D
☆	真菌検査法を修得し、白癬、カンジダ症、癬癩などの皮膚真菌症の診断を行うことができる	A B C D	A B C D
☆	皮膚科における小手術を理解し、実施することができる	A B C D	A B C D
☆	ステロイド外用療法や一般外用剤の作用機序を理解し、接触皮膚炎、虫刺症、褥瘡などの治療を行うことができる	A B C D	A B C D

Ⅱ-A-(6) 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、		研修医評価	指導医評価
★	1) 診療録（退院時サマリーを含む）をPOS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる。	A B C D	A B C D
★	2) 処方箋・指示箋を作成し、管理できる。	A B C D	A B C D
★	3) 紹介状と、紹介状の返信を作成でき、それを管理できる。	A B C D	A B C D

Ⅱ-A-(7) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、		研修医評価	指導医評価
★	1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を作成できる。	A B C D	A B C D
★	2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。	A B C D	A B C D
★	3) 入退院の適応を判断できる。（ディサージャリー症例を含む）	A B C D	A B C D

- ※必須項目：
- 1) 診療録の作成
 - 2) 処方箋・指示書の作成
 - 3) 診断書の作成
 - 4) 死亡診断書の作成
 - 5) C P C レポートの作成、症例呈示
 - 6) 紹介状、返信の作成
- 上記1)～6)を自ら行った経験があること（C P C レポートとは、剖検報告のこと）

B. 経験すべき症状・病態・疾患

Ⅱ-B-1. 経験すべき症候		研修医評価	指導医評価
	1) 発疹	A B C D	A B C D

Ⅱ-B-3. 経験が求められる疾患・病態

(1) 皮膚系疾患		研修医評価	指導医評価
★	1) 湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎）	A B C D	A B C D
★	2) 蕁麻疹	A B C D	A B C D
★	3) 薬疹	A B C D	A B C D
★	4) 皮膚感染症	A B C D	A B C D

(2) 免疫・アレルギー疾患		研修医評価	指導医評価
★	1) 全身性エリテマトーデスとその合併症	A B C D	A B C D

Ⅱ-D-その他		研修医評価	指導医評価
☆	1) 有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫などの皮膚悪性腫瘍の診断をし、適切な治療を行うことができる	A B C D	A B C D
☆	2) 全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎などの膠原病の皮膚病変について説明することができる	A B C D	A B C D
☆	3) 外用剤を皮膚疾患に対して的確に使用することができ、その作用機序、副作用を述べるができる	A B C D	A B C D

ゴシック体：Ⅱ-D-その他は当該科で経験が必要とされる項目

1) 研修指導体制

- 1. 担当指導医
 - a. 研修医 1 名に対して 1 名の担当指導医を置く。
 - b. 担当指導医は、全研修期間を通して研修の責任を負う。
 - c. 必ず 1 日 1 回研修医と連絡をとり、研修予定・研修内容をチェックする。
 - d. 研修医の公私にわたり相談に応じる。
 - e. 不在の際の責任体制・報告体制を研修医に示す。

2) 研修方略

- 1. オリエンテーション（第 1 日、担当指導医）
 - a. 皮膚科研修のカリキュラムの説明、スタッフへの紹介を行う。
- 2. 外来研修（担当指導医、上級医）
 - a. 皮膚科外来の見学、初診患者の診察（予診）と必要な検査を行う。
- 3. 病棟研修（担当指導医、上級医）
 - a. 担当指導医、上級医と相談して治療・検査予定・退院計画を立案する。
 - b. 処置（採血、血管確保、軟膏処置、創部の消毒、洗浄、ガーゼ交換）を行う。
- 4. 皮膚科手術研修（担当指導医、上級医）
 - a. 外来手術、入院手術の助手、執刀を行う。
- 5. その他
 - a. 空き時間に担当指導医からの皮膚科の講義を受ける。
 - b. 病理診断科との合同カンファレンス（隔週水曜日）に参加する。

3) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来見学 予診	病棟回診 外来見学 予診	病棟回診 外来見学 予診	外来見学 予診	外来見学 予診
午後	病棟回診 手術 夕方に時間があれば 講義	手術 夕方に時間があれば 講義	手術 隔週で16時より皮膚 病理カンファレンス 夕方に時間があれば 講義	病棟回診 手術 夕方に時間があれば 講義	病棟回診 夕方に時間があれば 講義

4) 研修評価項目

- 1. 研修終了後に自己評価と指導医評価を規定に従い、入力する。
- 2. 共通Aの評価表を規定に従い入力する。

研修全般に対する総合評価		研修医評価				指導医評価			
1)	仕事の処理	A	B	C	D	A	B	C	D
2)	報告・連絡	A	B	C	D	A	B	C	D
3)	患者への接し方	A	B	C	D	A	B	C	D
4)	規律	A	B	C	D	A	B	C	D
5)	協調性	A	B	C	D	A	B	C	D
6)	責任感	A	B	C	D	A	B	C	D
7)	誠実性	A	B	C	D	A	B	C	D
8)	明朗性	A	B	C	D	A	B	C	D
9)	積極性	A	B	C	D	A	B	C	D
10)	理解・判断	A	B	C	D	A	B	C	D
11)	知識・技能	A	B	C	D	A	B	C	D